

## 浸・冠水後のほ場に発生しやすい病害虫について

6月27日からの豪雨によって、県内の広い範囲で浸・冠水したほ場がみられる。浸・冠水後のほ場に発生しやすい病害虫について注意事項をまとめた。

### 1 イネの病害虫

#### (1) いもち病

水害により稲体が軟弱化するので、浸・冠水ほ場では退水後、定期的にはほ場を見廻り、早期発見に努める。

現在、葉いもちの発生はほとんど確認されていないが、今後の進展に伴って発生ほ場で、葉色が濃いなど病勢の急進展が予想される場合には、追加防除を実施する。

穂いもちは、葉いもちの発生状況と気象推移をみながら、防除の要否・回数を決定する。

#### (2) 白葉枯病

発病は感染から5～10日後に現れる。近年、発病事例が極めて少なく、県全体で菌密度が低下していると思われるが、退水後、10日程度までは注意が必要である。

発病が確認されたら直ちに防除する。

#### (3) アワヨトウ

現在まで発生は確認されていないが、水害後に発生しやすい。水害後の枯死葉に産卵する習性があるためと考えられている。浸・冠水後10日目頃に若齢幼虫の発生に注意する。

#### (4) セジロウンカ

6月27日頃からまとまった飛来がみられた。現在、飛来した地域及び飛来密度を確認中であるが、常発地以外の平坦地域にも発生程度の高い事例がみられるので、次世代の発生に注意が必要である。

今後、再飛来する可能性も高いので、飛来情報や発生推移に注意して防除計画を立てる。防除適期は飛来の15～20日後である。

葉色の濃いほ場では多発生しやすいので注意する。

#### (5) コブノメイガ

6月29日に寺泊町及び巻町で成虫が初確認された。セジロウンカと同時に飛来したと思われる。次世代幼虫は7月第2半旬頃に発生を始めるので、初期の被害葉の発生に注意し、多い場合には防除を実施する。また、今後の飛来情報や発生推移に注意する。

葉色の濃いほ場に多発生しやすい。

#### (6) イネツトムシ

6月下旬の発生量は平年比やや多かった。6月第5半旬で若齢～中齢幼虫が中心なので、成虫の発生は7月中旬～下旬と思われる。成虫が葉色の濃いほ場に産卵する習性が強いので、成虫期に葉色の濃いほ場で注意が必要である。

#### (7) その他

浸・冠水後には稲体が軟弱化して、全般に病害虫が発生しやすくなる。また、生育が停滞して葉色が濃くなった場合にも病害虫の発生が増える。巡回をこまめに実施し、病害虫の発生始めを見逃さないように注意する。

## 2 ダイズの病害虫

排水不良のほ場では立枯病類が発生しやすい。感染後の薬剤防除法はないので、早期の排水を徹底し、症状の進展を抑制する。

強風雨や浸・冠水で葉に傷がつき、全般に病害の発生が懸念される。こまめにほ場を見廻り、病害虫の発生始めを見逃さないようにする。

## 3 園芸作物の病害虫

### (1) モモせん孔細菌病

強風雨により感染が助長されたほ場等では今後、発病進展が懸念されるので速やかに薬剤散布する。

### (2) ネギ軟腐病

浸冠水したほ場等では今後、発病進展が懸念されるので、薬剤散布を実施し、排水対策に努める。高温期における過度な土寄せ、追肥をさける。

### (3) その他全般

今後、土壌水分の上昇及び高温期をむかえ草勢低下等から全般に疫病、べと病及び細菌性病害の発生が懸念されるので、排水対策及び発生初期の薬剤散布に努める。

病害虫発生予察情報・予報第5号(7月の発生予想)を6月30日発表の予定。

新潟県病害虫防除所	
(本所)	電話：0258(35)0867 FAX：0258(35)7445
(下越駐在所)	電話：0254(27)5518 FAX：0254(27)5518
(佐渡駐在所)	電話：0259(63)3185 FAX：0259(63)4386
E-mail アドレス(3か所共通) S062070@mail.pref.niigata.jp	